

カゴメにおける 気候変動への対応 について

カゴメ株式会社
東京本社
品質保証部
環境システムグループ
綿田 圭一

2023.2.24



自己紹介

所属： カゴメ株式会社 品質保証部 環境システムグループ

氏名： 綿田 圭一

出身： 大阪府堺市

略歴： 神戸大学農学部 園芸農学科 果樹園芸学専攻修士課程卒。

1988年カゴメ株式会社入社。研究所、工場、原料調達、CSR部門等を経て2017年より現職。

社内では気候変動対応、水・生物多様性保全等に携わり、環境教育にも力を入れている。

社外では京都産業大学での生物多様性の講演(19～22年)やTCFD提言への取組みに関する講演活動等を行い、農林水産省フードサプライチェーンにおける脱炭素化の実践とその可視化のあり方検討会委員(20～22年)や、おおさかATCグリーンエコプラザビジネス交流会幹事(21, 22年)等を務める。

1. カゴメのご紹介
2. 気候変動による世界の異常気象と
カゴメの原料調達拠点への影響
3. カゴメの気候変動への対応
 - 1) 緩和策と適応策
 - 2) 行政と投資家からの要求への対応
4. まとめ
5. さいごに

1. カゴメのご紹介



会社概要 (創業120年超、本社は東京と愛知県)

2021年12月末時点

本社所在地 愛知県名古屋市

創業 1899年

資本金 19,985百万円

株主数 195,877名 (内、個人株主比率 99.5%)

売上高 (連結) 189,652百万円

従業員数 (連結) 2,822名

事業所 本社、東京本社、1支社、8支店、6工場、イノベーション本部 (研究所)、東京ラボ

主な連結子会社

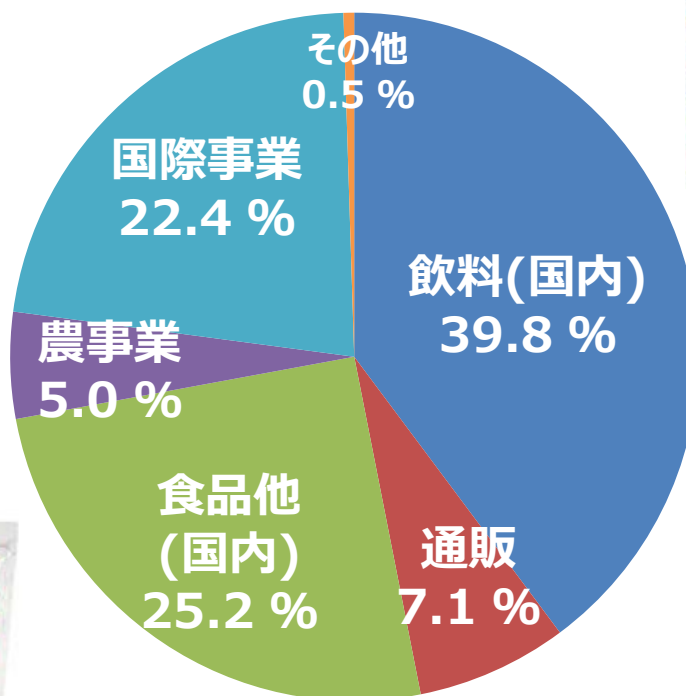
カゴメアクシス株式会社
カゴメアグリフレッシュ株式会社
響灘菜園株式会社
いわき小名浜菜園株式会社
株式会社八ヶ岳みらい菜園
高根ベビーリーフ菜園株式会社
Kagome Inc.
United Genetics Holdings LLC
Vegitalia S.p.A.
Holding da Industria Transformadora
doTomate, SGPS S.A. (HIT)
Kagome Australia Pty Ltd.
台湾可果美股份有限公司 他

- 本社
- イノベーション本部 (研究所)
- 支社・支店
- 工場



事業内容（野菜などを原料とし、飲料も、食品も）

飲料、食品、生鮮、その他、幅広く
商品を販売している食品企業です。



野菜加工品で皆様を健康に！

日本の**緑黄色野菜**消費量の**17.9%**、野菜消費量*の**4.7%**をカゴメが供給

* 淡色野菜 + 緑黄色野菜

日本国内の
野菜消費量

1,363 万トン

日本国内の
緑黄色野菜消費量

337 万トン

カゴメの 緑黄色野菜供給量

60.4 万トン

カゴメの 野菜供給量

63.8 万トン

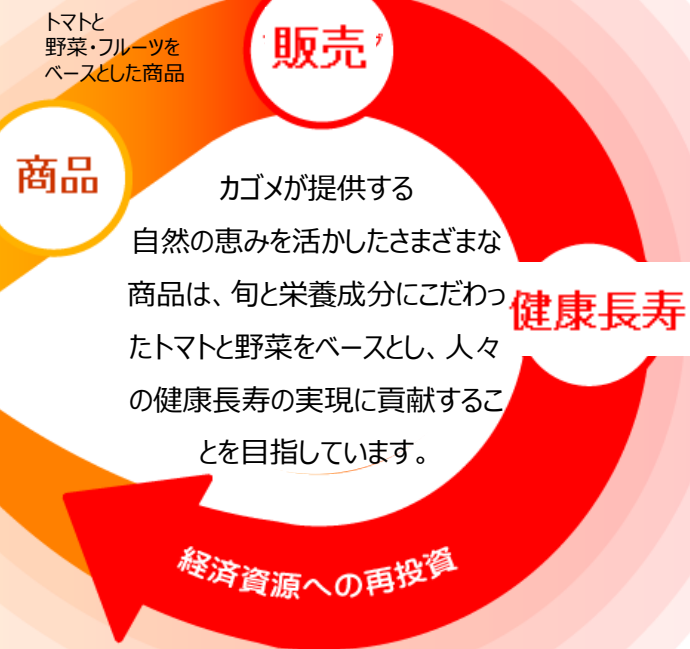


出典：VEGE-DAS（カゴメ野菜供給量算出システム）
農林水産省「食料需給表」（令和2年度概算値）

種子の開発も手掛ける 世界でもユニークな食品企業



農業と地球環境の保全



人々の健康増進

事業継続にとって気候変動は大きなリスク

飲料、食品、生鮮、その他、幅広く
商品を販売している食品企業です。

- ・カゴメの商品は**多くの農産原料**から製造。
- ・事業継続の**最大リスク**は原料調達途絶。
- ・よって**気候変動**による**異常気象**は農業に
とって脅威であり、カゴメの事業の**大きな
リスク**。

25.2 % 7.1 %



2. 気候変動による 世界の異常気象と カゴメの原料調達拠点 への影響



世界の異常気象とカゴメの原料調達拠点の被害

欧州：2022年8月、欧州の**60%以上**が、過去500年で最悪の**干ばつ**

日本：2020,21年、西日本で**大雪**や**大雨**。2022年は東京で**猛暑日****9日間連続記録**。6地点で同時に**40℃超えの観測史上初記録**。

北米：2022年、国土の**西側半分**が**干ばつ**。カリフォルニア州は**3年連続の干ばつ**・**森林火災発生**。来年も**干ばつ**が予測。

アジア：多くが**大雨被害**。2022年**パキスタン**は国土の**1/3**が**水没**

北米：2022年フロリダ州が**ハリケーン「イアン」**によりフロリダ史上**最悪の被害**(オレンジ生産半減)

オーストラリア：東部が被害。2019,20年に**干ばつ**で**森林火災**が発生した地域が、2021,22年は記録的**大雨**で**洪水被害**。

アフリカ：アフリカの角やマダガスカルで複数年**雨が降らず**、人々が**飢餓状態**

南米：チリでは**干ばつ**が**10年以上も続き常態化**。最南端の**氷河も融解**



世界の異常気象とカゴメの原料調達拠点の被害

欧州：2022年8月、欧州の**60%以上**が、過去500年で最悪の干ばつ

カゴメ：スペインの水不足のため、1サプライヤーがトマト栽培中止。調達できず。

日本：2020,21年、西日本で大雪や大雨。2022年は東京で猛暑日9日間連続記録。6地点で同時に40℃超えの観測史上初記録。

アジア：多くが大雨被害。2022年パキстанは国土の1/3が水没

北米：2022年、国土の西側半分が干ばつ。カリフォルニア州は3年連続の干ばつ・森林火災発生。来年も干ばつが予測。

カゴメ：カリフォルニアの水不足のため、トマトの作付け面積が減少

北米：2022年フロリダ州がハリケーン「イアン」によりフロリダ史上最悪の被害(オレンジ生産半減)

カゴメ：この影響でブラジル産オレンジ果汁も日本への輸出量減少。

アフリカ：アフリカの角やマダガスカルで複数年雨が降らず、人々が飢餓状態

オーストラリア：東部が被害。2019,20年に干ばつで森林火災が発生した地域が、2021,22年は記録的大雨で洪水被害。

カゴメ：2022年10月、トマト定植時期に大雨あり、生産量減少予測

南米：チリでは干ばつが10年以上も続き常態化。最南端の氷河も融解

3. カゴメの 気候変動への対応

- 1) 緩和策と適応策
- 2) 行政と投資家からの
要求への対応



気候変動に必要な対応

- ・企業は、気候変動に対し、温暖化を食い止めるための「**緩和**」とまだ続く温暖化への「**適応**」が必要

緩和

(温暖化を食い止める)

- ・CO2排出量を、2050年までにゼロを目指す。

CO₂ ↓

適応

(まだ続く温暖化に適応する)

- ・今後も発生するであろう気候変動やそれに伴う異常気象を予測し適応していく。

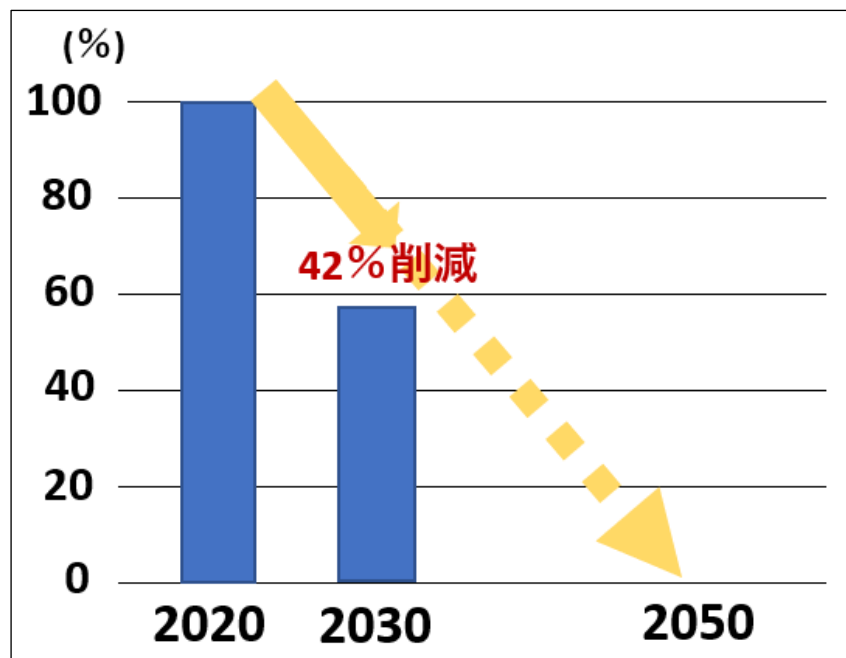


1) 緩和策と適応策

緩和策

①CO2削減目標の設定

- ・カゴメは、気温上昇を1.5℃までに抑制するためのCO2削減の**中長期目標**を立案し、**SBTイニシアチブ**の認定を取得。



<SBT認定取得企業>
(日本の食品企業[1.5℃目標])

- ・アサヒGHD、
- ・麒麟HD、
- ・サントリーHD、サントリー食品
- ・味の素
- ・カゴメ

(2023年2月1日時点)

<SBT (Science Based Targets) イニシアチブとは>

- ・企業の温室効果ガス排出削減目標が、パリ協定が定める水準に整合していることを認定する国際イニシアチブ。

1) 緩和策と適応策

緩和策

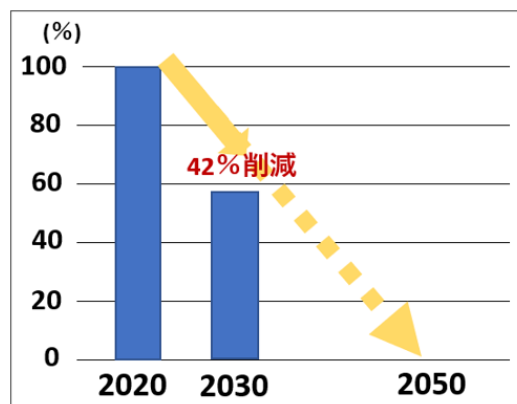
②CO2削減活動

・カゴメは、CO2削減目標の達成に向け、**省エネ・創エネ・買エネ**を実行

省エネ

- ・工場が無駄なエネルギーの使用を削減。
CO2排出量の少ない設備への切り替え。
- ・海外工場への省エネ技術指導

CO2排出量削減目標



買エネ

- ・2020年より一部の工場でCO2フリー電力を調達。



創エネ(太陽光発電)

愛知県 小坂井工場



長野県 富士見工場



米国工場



オーストラリア工場



1) 緩和策と適応策

緩和策

③CO2排出量の削減に貢献する商品の開発

・石油由来のプラスチック使用量の削減や、森林保全でCO2削減

キャップのプラをサトウキビ由来に変更
(紙容器飲料)



ストローに植物由来素材を5%配合。
一部の商品に紙ストロー採用。



100%リサイクル素材使用ペットボトル
(トマトジュース720ml, 265g)



FSC認証紙パックで森林保全
(200ml, 330ml紙パック飲料)



1) 緩和策と適応策

適応策

①耐病性品種開発による適応

・温暖化に対し、**高温耐性**のトマト品種の開発や、病害虫の北上に対し
今までにない複数の耐病性をもったトマトの新品種を開発し世界に販売

- ・世界8カ国に拠点をもつ**United Genetics Holdings社**（カゴメ子会社）にて
トマトや野菜の**自社品種を開発**し、世界80カ国に種子や苗を提供
- ・耐病性品種により、農薬使用量削減、持続可能な農業にも貢献



トマトの種子



豊富な遺伝資源から生まれた多様なトマト

1) 緩和策と適応策

適応策

②最小限の水の使用による干ばつ地域への対策

- ・**干ばつ等、水不足への対策として、最小の水でトマトが栽培できるAI管理システム**をNEC様とポルトガルで開発中。
- ・**ビッグデータ**を活用した海外での加工用トマト栽培技術開発に着手（2015年）。
- ・畑の**センサー、人工衛星、ドローン**のデータなどで畑の情報入手。
- ・データ活用により、**最小限の水（及び肥料）**の使用で、最大限の収穫量の達成を目指す。



日本電気(株) (NEC)
との共同開発



ポルトガルでのトマト生育調査

2) 行政と投資家からの要求への対応

- ・気候変動への対応として、**行政**からは継続的な**省エネ**の要求、**投資家**からは**CDP質問書への回答・情報公開**が求められ、**投資の判断材料**になる。
- ・企業はCO2削減だけでなく、**その他気候変動に関するさまざまな対応**を行うことで**CDP評価結果も高くなる**。

※CDPとは：世界の企業に環境取り組みに関する質問書を送り、回答内容に9段階の評価をつけ公開しているNGO(A,A-,B,B-,C,C-,D,D-,F)。評価が高いと環境保全に積極的な企業とみなされる（カゴメは2022年A-評価）。

要求者	要求物	項目	要求事項	カゴメの対応
行政	省エネ法報告	エネルギー使用実績と中長期計画報告	・電気やガス等のエネルギー使用量を生産量当たりで毎年1%以上削減しているか確認される。2年連続で対前年を上回るなど対応ができていないと、現地調査や行政指導が入る（S,A,B,Cで評価）。	・3年連続最高位のS評価。
投資家	CDP気候変動質問書への回答	削減目標設定	・気温上昇を1.5℃までに抑える世界目標に合致したCO2削減目標(SBT)を立案すること。	・2022年にSBT認証取得
		CO2削減	・削減目標に基づき、実際にCO2排出量が毎年削減できていること。	・2021年、対前年4.2%削減
		CO2第三者検証	・年間のCO2排出量の算定が正しく行えているか第三者の検証を受けていること。	・2018年から第三者検証を受け問題なし
		TCFD対応	・気候変動に対し自社のリスク・機会を把握し、対策を立て有価証券報告書等で公開すること。	・2019年TCFD対応行い情報公開

4. まとめ



まとめ

- カゴメの事業の**最大のリスク**は**原料調達の途絶**であり、気候変動による異常気象は大きなリスク。
- 既に、気候変動によりカゴメの**原料調達拠点**は**被害を受けている**。
- これに対し、カゴメは気候変動の**緩和と適応**を行っている。
- 企業は、**行政や投資家**等から気候変動に対する**多くの要求**がありそれらに**対応し公開**することが必要。

5. さいごに



消費者の皆様へのご紹介

国連のACT NOWグローバルキャンペーンの「**個人でできる10の行動**」の中に「**環境に配慮した製品を選ぶ**」があります。

CO2削減など環境対応に**積極的に取り組んでいる企業の製品を購入する等**で企業を応援いただくことも、**消費者の皆様の環境保全活動**のひとつになるものと思います。

皆様に応援していただけるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

【個人でできる10の行動】



END

ご清聴ありがとうございました。